

【1】 次の計算をなさい。

(1)  $(+4) + (+3)$

(2)  $(-2) + (-4)$

(3)  $(+2) + (+7)$

(4)  $(-5) + (-8)$

【2】 次の計算をなさい。

(1)  $(+7) + (-9)$

(2)  $(+4) + (-3)$

(3)  $(-6) + (+6)$

(4)  $(-12) + (+18)$

【3】 次の計算をなさい。

(1)  $(-5) + (-7)$

(2)  $(-3) + (+8)$

(3)  $0 + (-2)$

(4)  $(-4) + (+4)$

(5)  $(+15) + (-8)$

(6)  $(-40) + (+12)$

(7)  $(-19) + (-13)$

(8)  $(+24) + (-36)$

【4】 次の計算をなさい。

(1)  $(-4) + (+2.6)$

(2)  $(+4.8) + (-5.2)$

(3)  $(+\frac{5}{8}) + (-\frac{3}{8})$

(4)  $(-\frac{1}{5}) + (-\frac{3}{5})$

(5)  $(-\frac{3}{5}) + (+\frac{1}{10})$

(6)  $(+\frac{1}{2}) + (-\frac{3}{7})$

【5】 次の計算をなさい。

(1)  $(-6) - (-2)$

(2)  $(+1) - (+4)$

(3)  $(-2) - (+9)$

$(4) (+8) - (-4)$

【6】 次の計算をなさい。

$(1) (+7) - (-9)$

$(2) (-6) - (-1)$

$(3) (-3) - (+5)$

$(4) (-5) - (-5)$

$(5) (+6) - (+3)$

$(6) (-7) - (+7)$

$(7) 0 - (-8)$

$(8) (-4) - (-9)$

$(9) (+6) - (+9)$

$(10) (-14) - 0$

【7】 次の計算をなさい。

$(1) \left(+\frac{1}{4}\right) - \left(+\frac{6}{7}\right)$

$(2) (-3) - (-1.2)$

$(3) \left(-\frac{1}{9}\right) - \left(-\frac{4}{9}\right)$

$(4) (-0.4) - (+0.2)$

1 加法

例題 次の計算をなさい。

(1)  $(-1)+(-3)$       (2)  $(+1)+(-3)$

(1)  $(-1)+(-3) = \square + \square$

共通の符号

絶対値の和

$= -4$

(2)  $(+1)+(-3) = \square - \square$

絶対値が大きい方の符号

絶対値の差

$= \square$

2 次の計算をなさい。

(1)  $(+2)+(+7)$

(2)  $(-9)+(-4)$

(3)  $(-3)+(+6)$

(4)  $(+8)+(-11)$

(5)  $(-1)+(-1)$

(6)  $(+5)+(-5)$

(7)  $(+7)+0$

(8)  $0+(-2)$

(9)  $(+25)+(-38)$

(10)  $(-44)+(-16)$

3 次の計算をなさい。

(1)  $(+3)+(+3)$

(2)  $(-6)+(-2)$

(3)  $(+8)+(-1)$

(4)  $(-4)+(+7)$

(5)  $(-10)+(+6)$

(6)  $(+2)+(-7)$

4 次の計算をなさい。

(1)  $(+0.9)+(+2.3)$

(2)  $(-1.4)+(+0.6)$

(3)  $(+\frac{3}{5})+(-\frac{1}{5})$

(4)  $(-\frac{3}{4})+(-\frac{2}{3})$

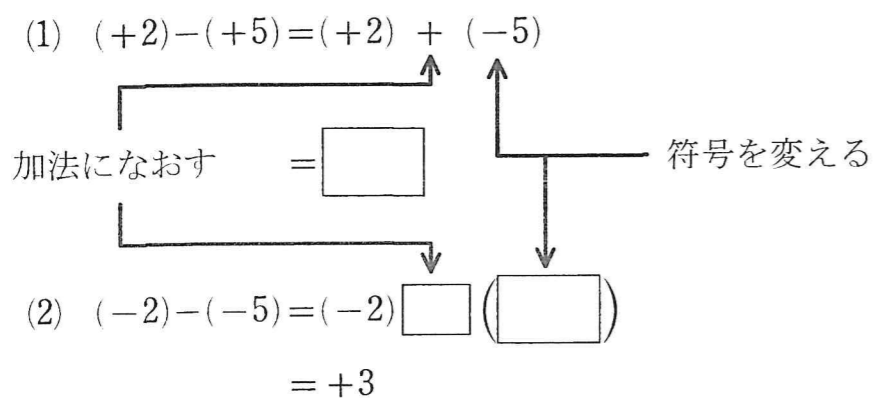
5 和が  $-12$  になる加法の式を1つ答えなさい。

6 正の数  $\triangle$  と負の数  $\square$  があります。 $\triangle$  の絶対値が  $\square$  の絶対値より小さいとき、 $\triangle$  と  $\square$  の和が正の数となるか負の数となるか答えなさい。

7 減法

例題 次の計算をなさい。

(1)  $(+2) - (+5)$                       (2)  $(-2) - (-5)$



8 次の計算をなさい。

(1)  $(+5) - (+8)$                       (2)  $(+6) - (+2)$

(3)  $(-12) - (+4)$                       (4)  $(+3) - (-7)$

(5)  $(-5) - (-11)$                       (6)  $(-8) - (-8)$

(7)  $(-3) - 0$                       (8)  $0 - (+6)$

(9)  $(+16) - (+31)$

(10)  $(-27) - (-18)$

9 次の計算をなさい。

(1)  $(+3) - (+1)$

(2)  $(-4) - (+9)$

(3)  $(+5) - (-1)$

(4)  $(-4) - (-6)$

10 次の計算をなさい。

(1)  $(-4.5) - (+2.3)$

(2)  $(-0.5) - (-3.1)$

(3)  $\left(-\frac{2}{3}\right) - \left(+\frac{2}{3}\right)$

(4)  $\left(+\frac{3}{8}\right) - \left(-\frac{1}{2}\right)$

(5)  $\left(-\frac{2}{5}\right) - \left(-\frac{1}{3}\right)$

(6)  $\left(+\frac{1}{6}\right) - \left(+\frac{3}{4}\right)$

11 差が  $-4$  になる減法の式を 1 つ答えなさい。



【1】 +, - の符号を使って, 次の温度を表しなさい。

(1) 0°Cより6°C低い温度

(2) 0°Cより4.5°C高い温度

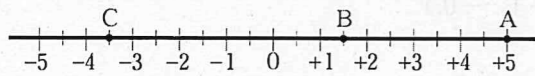
【2】 次の□にあてはまる数を書き入れなさい。

(1) 300円の収入を+300円と表すことにすれば, 200円の支出は□円と表される。

(2) 地点Aから東へ6m移動することを+6mと表すことにすれば, Aから西へ4m移動することは□mと表される。

(3) 現在より5時間後のことを+5時間と表すことにすれば, 現在より7時間前のことは□時間と表される。

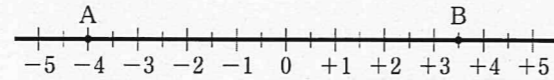
【3】 下の数直線について, 次の間に答えなさい。



(1) 上の数直線で, 点A, B, Cに対応する数を答えなさい。

(2) (1)の3つの数の大小を, 不等号を使って表しなさい。

【4】 下の数直線について, 次の間に答えなさい。



(1) 上の数直線で, 点A, Bに対応する数を答えなさい。

(2) 上の数直線に, 次の数に対応する点をしるしなさい。

C +4    D -1    E  $+\frac{3}{2}$

【5】 次の各組の数の大小を, 不等号を使って表しなさい。

(1) -4, -9

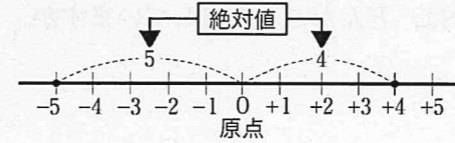
(2) +3, -2

(3) 0, +1, -6

【6】 (例題)

(1) +4は原点から4の距離にあるから, +4の絶対値は4である。

(2) -5は原点から5の距離にあるから, -5の絶対値は5である。



【7】 次の数の絶対値を答えなさい。

(1) +7

(2) -13

(3) +0.5

(4)  $-\frac{1}{6}$

(5) -1.02

(6)  $-\frac{4}{3}$

(7) 0

【8】 絶対値が9である数を, すべて答えなさい。

【9】 海面の高さより300m低いことを-300mと表すとき, +180mはどんなことを表していますか。

【10】 下の表は, ある年の各地方の梅雨明けの時期を表したものです。

	平年値	梅雨明け時期
沖縄	6/23	6/26
四国	7/18	7/20
近畿	7/21	
東北北部	7/28	7/25

(1) 沖縄, 四国, 東北北部地方の梅雨明け時期を, 平年値を基準にして, それより遅いことを正の数, 早いことを負の数で表しなさい。

(2) (1)の表し方では, 近畿地方は-1日でした。近畿地方の梅雨明け時期は何月何日でしたか。

【11】 次の数を、小さいほうから順に書きなさい。

$$+0.6, -\frac{1}{4}, +1, 0, -0.15$$

【12】 次の数のなかで、絶対値が等しいものはどれとどれですか。すべて答えなさい。

$$-0.6, +\frac{1}{6}, -8, +0.8, -\frac{1}{6}, -0.8$$

【13】 (例題) 次の数量を、+, -の符号のついた数で表しなさい。

- (1) 1000円の収入を+1000円と表すときの300円の支出
- (2) 体重が4kg増加したことを+4kgと表すとき、体重が2kg減少したこと

【14】 +, -の符号を使って、次の温度を表しなさい。

- (1) 0°Cより7.5°C低い温度
- (2) 0°Cより5°C高い温度

【15】 次の数量を、+, -の符号のついた数で表しなさい。

- (1) 500円の黒字を+500円と表すときの200円の赤字
- (2) A地点から東へ8m移動することを+8mと表すとき、A地点から西へ5m移動すること

【16】 現在から5分後を+5分と表すことにします。次の間に答えなさい。

- (1) 現在から2分前を、+, -の符号を使って表しなさい。
- (2) -9分は、どんなことを表していますか。

【17】 次の数量を、正の数を使った表現になおしなさい。

- (1) -35cm低い
- (2) -10kg重い

【18】 下の表は、河口湖、西湖、山中湖の標高を示したものです。

	標高(m)
河口湖	831
西湖	900
山中湖	981

河口湖、山中湖の標高を、西湖の標高を基準にして、それよりも高いことを+, 低いことを-の符号を使って表しなさい。

【19】 下の表は、ある年の各地方の梅雨明けの時期を表したものです。

	平年値	梅雨明け時期
沖縄	6/23	6/26
四国	7/18	7/20
近畿	7/21	
東北北部	7/28	7/25

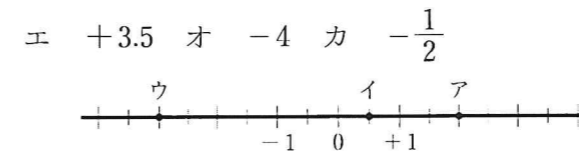
(1) 沖縄、四国、東北北部地方の梅雨明け時期を、平年値を基準にして、それより遅いことを正の数、早いことを負の数で表しなさい。

(2) (1)の表し方では、近畿地方は-1日でした。近畿地方の梅雨明け時期は何月何日でしたか。

【20】 次の間に答えなさい。

- (1) 次の各組の数の大小を、不等号を使って表しなさい。
  - ① -2, -5
  - ② 0, -4, +1
- (2) 次の数の絶対値を答えなさい。
  - ① -5
  - ② +2.3

【21】 下の数直線で、点ア~ウに対応する数を答えなさい。また、下の数直線上に、次の数に対応する点をしるしなさい。



【22】 次の各組の数の大小を、不等号を使って表しなさい。

- (1) 0, -7

- (2) -12, -16

【23】 次の数の絶対値を答えなさい。

- (1) +4
- (2) -6

- (3) +2.4

- (4)  $-\frac{3}{2}$

【24】 絶対値が8になる数を答えなさい。

【25】 次の各組の数の大小を、不等号を使って表しなさい。

- (1) -6, +5, 0
- (2) -1, -0.1

- (3)  $-\frac{1}{3}, -\frac{1}{5}$

【26】 次の数を小さいほうから順に書きなさい。

$+6, -\frac{1}{4}, +2.5, 0, -1.3$

【27】 次のア～オのなかで、絶対値がもっとも大きい数と、絶対値がもっとも小さい数をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

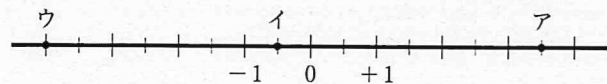
ア  $-3$     イ  $-0.7$     ウ  $\frac{2}{5}$

エ  $2$       オ  $\frac{7}{3}$

【28】 次の間に答えなさい。

(1) 700円の収入を+700円と表すとき、400円の支出はどう表されますか。

(2) 下の数直線で、点ア～ウに対応する数を答えなさい。



(3) 絶対値が5より小さい整数は全部で何個ありますか。

(4) 次の各組の数の大小を、不等号を使って表しなさい。

①  $-2, 5, 0$

②  $+1, -\frac{3}{4}, -0.7$

【29】 +, -の符号を使って、次の温度を表しなさい。

(1) 0°Cより2°C高い温度

(2) 0°Cより4.5°C低い温度

【30】 下の数のうち、(1)～(3)にあてはまるものをすべて選びなさい。

$-1, +5, 0, -\frac{2}{3}, +2.2$

(1) 正の数

(2) 負の数

(3) 自然数

【31】 次の数量を、+, -の符号のついた数で表しなさい。

(1) 阿蘇山の標高1592 mを+1592 mと表すときの日本海溝こうの水深8020 m

(2) 70円の利益を+70円と表すときの50円の損失

【32】 今日より5日後のことを+5日と表すとき、次の数量はどんなことを表しますか。

(1) +2日

(2) -10日

【33】 下の表は、小テストの結果をまとめたものです。目標とした得点70点を基準にして、それより高いことを正の数、低いことを負の数で表すことにします。

表の空らんにあてはまる数を書きなさい。

	1回	2回	3回
得点 (点)	84	67	70
目標得点70点を基準にした得点(点)			

【34】 下の表は、ある日の各地の最高気温を示したものです。次の間に答えなさい。

	東京	仙台	大阪	福岡
最高気温(°C)	21	19	22	25

(1) それぞれの都市の最高気温を、東京の最高気温21°Cを基準にして、それより高いことを正の数、低いことを負の数で表しなさい。

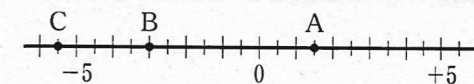
① 仙台

② 大阪

③ 福岡

(2) この日の札幌の最高気温は、東京の最高気温を基準にすると-6°Cと表すことができます。札幌の最高気温を求めなさい。

【35】 下の数直線について、次の間に答えなさい。



(1) 点A, B, Cに対応する数を答えなさい。

(2) 上の数直線上に、次の数に対応する点をしるしなさい。

D  $-\frac{3}{2}$     E 3.5    F +6

【36】 次の各組の数の大小を、不等号を使って表しなさい。

(1)  $-2, +7$

(2)  $-3, -5$

(3)  $0, -7, +4$

【37】 次の数の絶対値を答えなさい。

(1) 0

(2) +10

(3) -4.5



【38】絶対値が9である数を答えなさい。

【39】絶対値が4以下の整数はいくつありますか。その個数を、次の(ア)～(エ)のうちから1つ選び、記号で答えなさい。

- (ア) 4個
- (イ) 5個
- (ウ) 8個
- (エ) 9個

【40】次の各組の数の大小を、不等号を使って表しなさい。

(1)  $-2.9, -2$

(2)  $-\frac{2}{3}, -1$

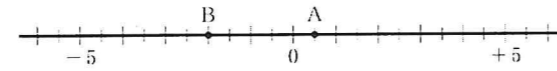
(3)  $-\frac{3}{4}, -0.7$

【41】 $-1.98 < x < \frac{9}{4}$ をみたす整数 $x$ を、小さい順にすべて書きなさい。

【42】次の間に答えなさい。

(1) 体重が2 kg増加したことを+2 kgと表すとき、体重が3 kg減少したことを、+、-の符号を使って答えなさい。

(2) 下の数直線について、次の間に答えなさい。



- ① 点A, Bに対応する数を答えなさい。
- ② 上の数直線上に、次の数に対応する点をしるしなさい。
  - C +4.5
  - D  $-\frac{7}{2}$

(3) 次の各組の数の大小を、不等号を使って表しなさい。

- ①  $0, +2, -7$
- ②  $-1.2, -0.8$

(4) 絶対値が4より大きく、7より小さい整数をすべて答えなさい。